

甲虫ニュース

June 1998

No. 122

COLEOPTERISTS' NEWS

日本産エンマムシ上科概説 IX^{註1}

—ドウガネエンマムシ亜科 (ツヤハマベエンマムシ属), ツツエンマムシ亜科—

大原昌宏

ツヤハマベエンマムシ属

Eopachylopus REICHARDT, 1926

世界に1種。「頭部に条溝をもつ、背面に点刻を欠く、前胸腹板突起が著しく狭くなる」ことから日本産の他属と区別できる。脛節に太い長刺を多く生やす。海浜の動物性腐敗物に集まる。

ツヤハマベエンマムシ (図2)

Eopachylopus ripae (LEWIS, 1885)

Neopachylopus ripae: 図説 N: 67.
… *Eopachylopus ripae*: 図説 H: 223;
ÔHARA, 1994: 264 [再記載, ♂交尾器].

前胸腹板中央が著しく狭くなる構造から、他種と容易に区別できる。体長 (前胸背前角から尾節先端まで) 2.09-3.34 mm. 全体黒色のものと鞘翅に赤紋をもつものがある。脛節には砂地への適応と考えられる長い刺や刺毛をもつ。海浜性。分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島, 韓国, 沿海州。

1-3-10 ツツエンマムシ亜科
Trypeticinae

小さな亜科で3属を含む: *Trypeticus* 属, *Pygocoelis* 属 (10種; アフリカに分布), *Trypobius* 属 (2; アフリカ中, 西部). 近縁な亜科としてニセツツエンマムシ亜科 *Trypanaeninae* があり, 3属75種が中南米から知られる。これらの2科は比較形態の結果などからクroppエンマムシ亜科の族として扱う方が妥当のようである (未発表).

ツツエンマムシ属

Trypeticus MARSEUL, 1864

世界に34種, 日本からニューギニアまでの東南

アジア, インド, スリランカに分布する。森林害虫であるキクイムシの捕食者。日本には2種が分布するが, 標本が十分ではなく, さらに検討が必要である。

1(2) 前胸腹板に側条はない。次種より太く大型……………ツツエンマムシ

2(1) 前胸腹板に側条をもつ……………ホソツツエンマムシ

ツツエンマムシ (図1, 3)

Trypeticus fagi (LEWIS, 1884)

図説 N: 67; 図説 H: 224; ÔHARA, 1994: 268 [再記載, ♂交尾器].

キクイムシの幼虫を捕食する。筒型の特異な形態をしたエンマムシのため他種と間違えることはないであろう (図1)。同じキクイムシの捕食者で体形の似ているナガエンマムシとは、前胸腹板の触角をしまう溝の構造から容易に区別される。またホソエンマムシ属とは頭部に角をもたないことで区別できる。性的二型 (図3A-D) があり, 雄の頭部は平滑でややくぼむ。雌は縁条をもち強く凹み, 前胸背前方中央にも隆起がある。分布: 北海道, 本州, 沿海州? ホソツツエンマムシ

Trypeticus venator (LEWIS, 1884)

図説 H: 224; ÔHARA, 1994: 267.

標本未検討。分布: 本州, 九州, 台湾。

追加・訂正。

1) YÉLAMOS & TISHECHKIN (1996) は, キノコアカマルエンマムシのレクトタイプ指定とシノニムの追加を行い, それに伴い分布が広がった。

・キノコアカマルエンマムシ *Notodoma fungorum* LEWIS, 1884

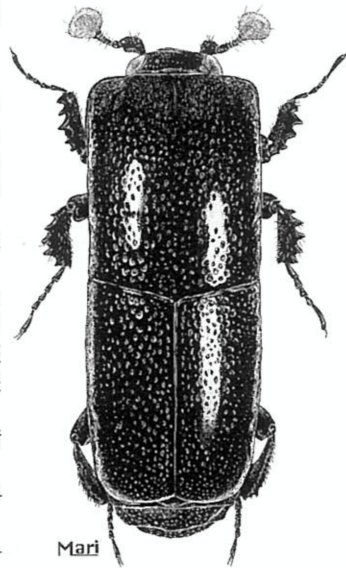


図1 ツツエンマムシ
Trypeticus fagi LEWIS

^{註1} M. ÔHARA, Taxonomic note on the superfamily Histeroidea of Japan, IX.

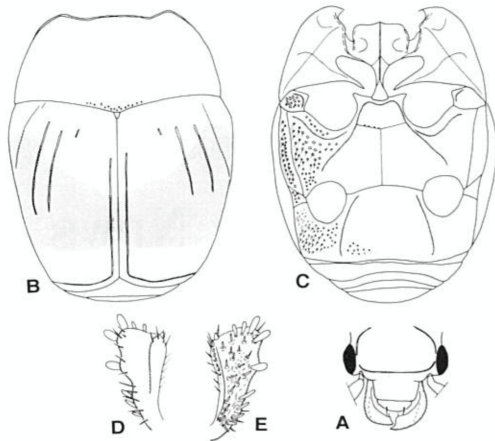


図2 ツヤハマベエンマムシ。A: 頭部。B: 成虫 (赤紋型), 背面。C: 同, 腹面。D: 前脛節, 背面。E: 同, 腹面。

Notodoma saturum LEWIS, 1902: 267, synonymized by YÉLAMOS & TISHECHKIN, 1996: 78.

Notodoma orientale LEWIS, 1903: 425, synonymized by YÉLAMOS & TISHECHKIN, 1996: 78.

Notodoma formosarum BICKHARDT, 1912: 126, synonymized by YÉLAMOS & TISHECHKIN, 1996: 78.

分布: 日本, ミャンマー, ベトナム, 中国 (福建省), 台湾, 韓国。

2) ポーランド・ワルシャワ農業大学の MAZUR 博士は 1984 年にワールドカタログを完成させ, 世界のエンマムシの全貌が容易につかめるようになった。驚くことに昨年 (1997) にも「A world catalogue of the Histeridae」改訂版が出され, 13 年分の新知見と索引が追加されより一層充実した内容となった。約 10 年に一度, ワールドカタログの編纂される昆虫分類群はあまりないであろう。MAZUR 博士がエンマムシ研究に果たした役割は計り知れない。現在, 332 属 75 亜属 3793 種 48 亜種が世界から知られている。

カタログにおいて, 高次分類や日本産の種についても変更がなされている。最新の扱いとして以下に要約して記したい。扱いの正当性はさらに検討を要するものもある。高次分類の配列は ÔHARA (1994) の体系に改められた。また以前のもので私の見落としていた学名の変更や訂正もあるので一緒に記しておく。

・チュウジョウチビエンマムシ *Baconia* (*Binhister*) *chujoi* (COOMAN, 1941)

Binhister chujoi: ÔHARA, 1994: 90.

Baconia (*Binhister*) *chujoi*: MAZUR, 1997: 26.

Binhister 属が *Baconia* 属の一亜属に移動された。*Baconia* 属は 2 亜属に分かれ, *Baconia* 亜属 (24 種) は東南アジア, 新大陸に, *Binhister* 亜属 (3) は, ベトナム, 日本, ブラジルに, それぞれ分布する。

・インドナガエンマムシ *Silinus atratus* (ERICHSON, 1834)

Platysoma (*Platylister*) *atratum*: ÔHARA, 1994: 96.

Silinus atratus: MAZUR, 1997: 62.

Silinus 属へ移された。属の特徴は「前胸背の縁条が基部で内側へ延長すること。本種は確かに多少延長するが, 他の *Silinus* 属の種より明らかに小型で交尾器の構造も異なる。属の再定義が必要であろう。*Silinus* 属は 10 種が知られ東南アジアからオーストラリアに分布する。

・ナガエンマムシ *Cylistix lineicolle* (MARSEUL, 1873)

Cylistix lineicollis: ÔHARA, 1994: 105

Cylistix lineicolle: MAZUR, 1997: 75.

Cylistix 亜属が *Cylistix* 属の主観シノニムとなった。

・アラメエンマムシ *Zabromorphus salebrosus subsolanus* NEWTON in JOHNSON, et al., [1992]

Hister punctulatus WIEDEMANN, 1819: 162 (nec OLIVER, 1789), homonymized by NEWTON in JOHNSON, et al., [1992]: 13.

Zabromorphus punctulatus: ÔHARA, 1994: 132.

・ミカドチビエンマムシ *Bacanius mikado* (LEWIS, 1892)

分布が追加。分布: 日本, 中国 (安徽省)。

・マルチビヒラタエンマムシ *Cryptomalus montivagus* (LEWIS, 1892)

Australomalus montivagus: ÔHARA, 1994: 171.

Cryptomalus montivagus: MAZUR, 1997: 181.

Cryptomalus 属は MAZUR (1993: 216) により創設され, 「中胸腹板に陥没は無く, 単純な点刻を具える」ことから, *Australomalus* 属の「中胸腹板に陥

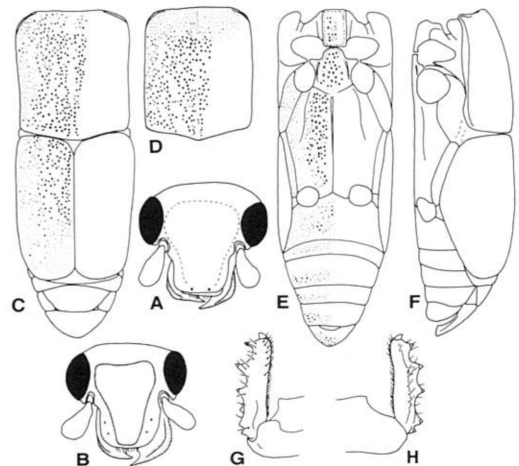


図3 ツツエンマムシ。A, B: 頭部。C: 成虫, 背面 (頭部を除く), D: 前胸背, 背面。E: 成虫, 腹面。F: 同, 側面。G: 前脛節, 背面, H: 同, 腹面。A, C, E-H: 雄, B, D: 雌。

没をもち、粗く疎な点刻を具える」状態と区別される。世界に5種、フィジー、ベトナム、日本、ネパールに分布する。

・ヤマハマベエンマムシ *Hypocaccus* (*Hypocaccus*) *subaeneus* (SCHMIDT, 1890)

Hypocaccus (*Hypocaccus*) *subaeneus* (sic): HISAMATSU, 1981 (図説H): 223; ÔHARA, 1994: 252; 大原, 1989: 247; 1998 (概説VIII): 5; ÔHARA and PAIK, 1998: 29.

概説VIII (甲虫ニュース121号): p. 5, 左段下から1行目「途中」を「中央」に。

3) ÔHARA and PAIK (1998)により朝鮮半島産エンマムシが整理された。日本産で朝鮮半島での分布が新たに明らかになった種と記録が洩れていたものは次のとおり: オオセスジエンマムシ, キノコセスジエンマムシ, キノコアカマルエンマムシ, ヒラタエンマムシ, オオナガエンマムシ, ニセヒメナガエンマムシ, ナガエンマムシ, クロエンマムシ, アラメエンマムシ, アカモンエンマムシ, コツヤエンマムシ, ツヤマルエンマムシ, ニセヒメエンマムシ, ヒメエンマムシ, ハコネエンマムシ, オオマメエンマムシ, アカツブエンマムシ, クロチビエンマムシ, ツヤチビヒラタエンマムシ, クロツブエンマムシ (台湾, 中国, 沿海州, ウスリー州も追加), ハマベエンマムシ。

謝辞

この解説を作成するにあたり、多くの方々のご指導、ご協力を得た。特に、中根猛彦博士には学生時代よりご指導をいただき、常に暖かくかつ厳しく見守って下さった。私のエンマムシ研究は先生のコレクションが基礎となって展開されたものである。久松定成博士、西川正明氏には図の引用の許可をいただいた。大林延夫博士、上野輝久氏からは貴重な情報をいただいた。高木貞夫博士、久万田敏夫博士、諏訪正明博士、秋元信一博士には体系学の指導を現在もしていただいている。田中真理女史は毎回私の無理な注文に応じ原画を用意してくれた。多くの読

者は内容よりも図を楽しみにされていたようだ。最後に妹尾俊男博士には編集の労をとっていただきご迷惑をおかけした。これらの方々には心から厚くお礼申しあげる。

おわりに

以上9回、3年わたりエンマムシ上科の解説をさせていただいた。初回にも記したとおり、未検討の属・種が残っているが、それらについてはオリジナル論文が印刷となった後に、再び解説をさせていただければ幸いである。

参考文献 (Iで挙げたものは*を付け略した)

- *久松定成 (HISAMATSU, S.) (1985). [図説H].
JOHNSON, S. A., LUNDGREN, R. W., NEWTON, JR. A. F., THAYER, M. K., WENZEL, R. L., and WENZEL, M. R. [1992]. Mazur's World Catalogue of Histeridae: emendations, replacement names of homonyms, and an index. *Pol. Psimo Ent.*, **61**(2) [for 1991]: 100 pp.
MAZUR, S. (1993). Notes on new and little known Oriental Histeridae (Coleoptera). *Rev. Suisse Zool.*, **100**: 211-219.
MAZUR, S. (1997). A world catalogue of the Histeridae (Coleoptera: Histeroidea). *Biologica Silesiae, Wrocław*, **1997**. 373 pp.
*中根猛彦 (NAKANE, T.) (1963). [図説N]
大原昌宏 (ÔHARA, M.) (1989). エンマムシ科. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共編: 日本産昆虫総目録, I. pp. 246-250.
*ÔHARA, M. (1994).
ÔHARA, M., and PAIK J.-C. (1998). Notes on the histerid beetles of Korea (Coleoptera: Histeridae), with description of two new species and redescription of three species. *Ins. matsum. n.s.*, (54): 1-32.
YÉLAMOS T. & TISHECHKIN A. (1996). Contribution to the knowledge of genus *Notodoma* LACORDAIRE (Coleoptera: Histeridae). *Zapateri Revta. Aragon. ent.*, **6**: 69-82.

(北海道大学昆虫体系学教室)

○カントウコチビシテムシの冬季採集例

Sciodrepoides pluvialis M. NISHIKAWA カントウコチビシテムシは、埼玉県北本市石戸宿及び東京都大田区大井埠頭産の個体を基に近年記載されたチビシテムシである。原記載以降の記録は無い様である



が、筆者は、埼玉県東松山市において冬季採集の際に、本種を採集する事が出来たので報告する。

1♀, 埼玉県東松山市毛塚 (九十九川脇の湿地), 27.XII.1996, 豊田浩二採集, 保管。

湿地に生える背丈の低い草本類の、盛り上がった根元部分で、土の上をゆっくりと歩いていた。

末筆ながら、本種について御教示頂いた神奈川県海老名市の西川正明氏に厚く御礼申し上げる。

参考文献

- NISHIKAWA, M., 1992. New Lowland *Sciodrepoides* (Coleoptera, Cholevidae) from the Kwanto Plains, Central Japan. *Elytra, Tokyo*, **20**(2): 197-201.
牧林 功, 1995. 北本市の甲虫類, 北本の動植物誌, 埼玉県北本市教育委員会: 195-246.

(埼玉県嵐山町, 豊田浩二)

日本未記録のカッコウムシの1種 II*

佐藤 真 矢

日本から *Isoclerus* 属は *I. pictus* LEWIS, 1892 ヨツモンチビカッコウムシ, 1種のみが記録されているにすぎないが, 筆者は本属で, 本邦初記録と思われる石垣島産の標本を検査することが出来たのでここに報告する。

この *Isoclerus* 属の1種は沖縄県石垣島のパンナ

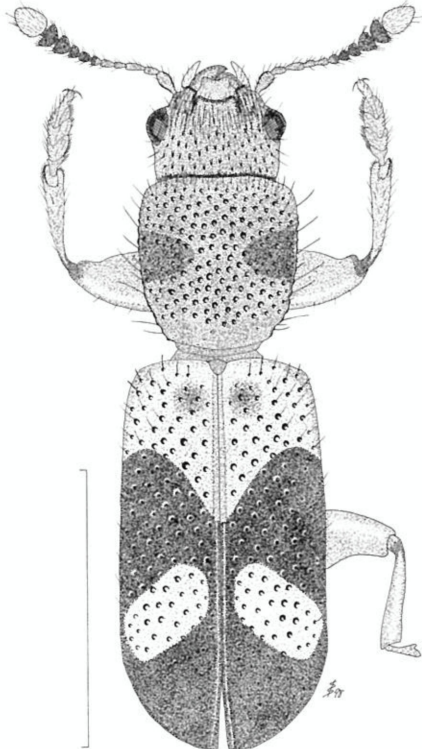


図1 *Isoclerus disinlei* KOLIBAC, ♂; 石垣島産. スケール 1.0 mm.

岳で採集されたもので, 体長は2.5 mm とやや小型であり, ヨツモンチビカッコウムシとは頭部の色彩, 上翅の斑紋の形が異なり一見して区別がつく. 本種はその形態的特徴より比較的最近, 台湾より記載された *Isoclerus disinlei* KOLIBAC, 1992 と同定される.

***Isoclerus disinlei* KOLIBAC, 1992**

タイワンチビカッコウムシ (和名新称), 図1.

KOLIBAC, 1992. *Mitt. Sch. Ent. Ges.*, 65: 325.

記載: 体長 2.5 mm.

体全体に多少とも光沢がある. 頭部, 胸部, 触角, 脚は赤褐色だが頭部基部, 大顎先端, 触角第7~10節, 脛節基部は黒味がかかる. 口器は黄色. 上翅は前方約1/3が黄褐色, 後方約2/3が黒色で, 黄褐色部に一對の不明瞭な赤褐色斑があり, 黒色部には一對の大きく明瞭な黄色斑がある. 体の毛は黄褐色から赤褐色だが上翅黒色部と肩部は黒色となる.

頭部はやや密に点刻され, 前頭は深く湾入する. 前部にある縦じわ状の細い溝は中央まで達する. 触角末端節は第9節と第10節を合わせた長さと同様.

前胸背板は大きな点刻を密に備え, 中央両側は深く窪む. 側縁は明瞭に縁どられ, 前方2/3まではほぼ平行.

上翅は大きな点刻を密に備えるが, 後方では小さく疎となる.

検視標本: 1♂, 沖縄県石垣市パンナ岳, 28.IX. 1980, T. TAKAHASHI 採集.

分布: 日本(石垣島), 台湾.

最後に貴重な標本をお貸しいただいた的場 積氏に深くお礼申し上げます.

参考文献

KOLIBAC, J., 1992. Revision of Thanerocleridae n. stat. (Coleoptera, Cleroidea). *Mitt. Sch. Ent. Ges.*, 65: 303-340.

(三重県鈴鹿市)

* Shinya SATO, One Checkered-Beetle New to Fauna of Japan, II.

○久米島におけるツブヒゲナガゾウムシの記録

ツブヒゲナガゾウムシ *Cisanthribus nakanei* は, MORIMOTO (1986) によって記載されたヒゲナガゾウムシ科最小の種である. 模式産地は沖永良部島で, 同時に石垣島からも記録されたが, 筆者の知る限りその他の産地における採集例はないようである. 最近, 久米島の土壌中から採集されたゾウムシ類を検査する機会に恵まれた. その中に本種が含まれていたため, 同島初記録として報告する.

2頭, 沖縄県具志川村白瀬川, 16. III. 1998, 丸山宗利採集.

末筆ながら, 仲介の労を賜った東京農業大学昆虫学研究室の岸本年郎, 貴重な標本を恵んでくださった北海道大学の丸山宗利両氏にお礼申し上げます.

参考文献

MORIMOTO, K., 1986. Notes on some Japanese Anthribidae (Coleoptera). *Pap. Ent. pres. NAKANE*, 273-277.

(東京農大, 吉武 啓)

紀伊半島のジョウカイボン科の記録*

桐山 功

ここ十年ほどかけて紀伊半島奥地の軟鞘類を調査してきたが、一区切りついたので、あまり知られていない *Podabrus* 属の♂交尾器の図を付けて採集結果を報告したい。なお、本文をまとめるに当たってご助言を賜った佐藤正孝博士と高橋和弘氏に厚くお礼申し上げる。

1. *Podabrus (Podabrus) heydeni* KIESENWETTER クビボソジョウカイ

2♂♂1♀, 奈良県吉野郡十津川村葛川, 18. V. 1995, 桐山 功採集。

同所的に混生している次種と非常に近似しているが、♂交尾器を見ることによってはっきり区別することができる。

2. *Podabrus (Podabrus) osawai* NAKANE et MAKINO オオサワクビボソジョウカイ

1♂, 奈良県吉野郡十津川村上葛川, 18. V. 1995, 桐山 功採集。

本種は MAKINO & NAKANE (1981) によって岡山県後山, 広島県三段峡, 京都府鞍馬-貴船で採集された標本をもとにして新種記載された種であるが, その後桐山 (1995) が岐阜県から記録しているほか, 今坂ほか (1990) が岡山県から, 今坂・中村 (1993, 1994, 1996) が広島県から記録している。これにより本種は西は広島県から東は岐阜県までの間に広く分布していることが分かる。

3. *Podabrus (Asiopodabrus) kasugensis* NAKANE et MAKINO カサガクビボソジョウカイ

6♂♂1♀, 奈良県吉野郡十津川村白谷, 17. V. 1995, 桐山 功採集; 3♂♂3♀♀, 和歌山県東牟婁郡熊野川町滝本, 4-5. V. 1988, 桐山 功採集; 1♀, 同所, 19. V. 1995, 桐山 功採集; 1♂2♀♀, 同所, 7. V. 1993, 桐山 功採集; 10♂♂6♀♀, 同所, 11. V. 1997, 桐山 功採集。

本種は NAKANE & MAKINO (1989) によって奈良県春日山産の標本により記載された種で, その後今坂・中村 (1997) が広島県から記録しており, 西は広島県から東は奈良・和歌山県まで分布していることになる。*P. malthinoides* KIESENWETTER クロヒメクビボソジョウカイや, *P. kadowakii* NAKANE et MAKINO コクロクビボソジョウカイに近似しているが, 体全体が鮫肌状で, 光沢がないことや♂交尾器の ventral process や dorsal process の形が独特であることから識別できる。

4. *Podabrus (Asiopodabrus) neglectus neglectus* NAKANE チビクビボソジョウカイ。

1♂6♀♀, 奈良県吉野郡十津川村北又谷, 5. VI. 1997, 桐山 功採集。

本種は NAKANE & MAKINO (1989) によって鹿児島産の標本で記載されたが, その後今坂・大塚 (1996) によって熊本県から記録されており, TAKAHASHI (1995) が *P. minus* を本種の神奈川県産種とした。今回の奈良県産の個体は, この神奈川県産種よりも原亜種に近い形態を持っていた。

5. *Podabrus (Asiopodabrus) yoshidai* NAKANE ヨシダクビボソジョウカイ

2♂♂3♀♀, 奈良県吉野郡十津川村白谷, 17. VI. 1995, 桐山 功採集; 1♀, 同所, 4. VI. 1997, 桐山 功採集; 1♂, 奈良県吉野郡十津川村葛川, 1. VI. 1986, 桐山 功採集; 1♂, 同所, 18. V. 1995, 桐山 功採集; 1♀, 同所, 5. VI. 1997, 桐山 功採集; 2♀♀, 奈良県吉野郡十津川村北又谷, 5. VI. 1997, 桐山 功採集; 2♂♂3♀♀, 三重県一志郡美杉村三重大学演習林, 7. VI. 1997, 桐山 功採集。

本種は NAKANE & MAKINO (1989) によって和歌山県護摩壇山産の♀の標本を用いて記載されたあと, 今坂・中村 (1994) によって *P. kiso* NAKANE キソクビボソジョウカイのシノニムとされた。しかし, 両種の原記載を比較すると色彩や頭部と前胸背板の形状が全く異なることや, 新たに採集した♂の交尾器を比較すると本種の ventral process の長さが非常に長いことなどによって, やはり, *P. kiso* とは別種であることが分かる。

6. *Micropodabrus longipes* (WITTMER) ナガヒゲジョウカイ

1♂11♀♀, 和歌山県東牟婁郡熊野川町滝本, 4-5. V. 1988, 桐山 功採集; 8♀♀, 同所, 7. V. 1993, 桐山 功採集; 2♀♀, 同所, 11. V. 1997, 桐山 功採集; 和歌山県新宮市三輪崎, 1♀, 10. V. 1994, 桐山 功採集; 奈良県吉野郡十津川村北又谷, 1♀, 12. V. 1996, 桐山 功採集。

本種は奈良県吉野山で採集された標本をもとにして WITTMER (1953) によって記載された種であり, その後神奈川県や静岡県・和歌山県・三重県・香川県などの太平洋岸に沿った地域から報告されている。

7. *Athemus (Athemus) aegrotus* (KIESENWETTER) クロホソジョウカイ

1♂, 奈良県吉野郡十津川村白谷, 17. V. 1995, 桐山 功採集; 1♀, 和歌山県東牟婁郡熊野川町滝本, 11. V. 1997, 桐山 功採集。

8. *Athemus (Athemus) tsukii* TAKAHASHI ツユキクロホソジョウカイ

1♀, 奈良県吉野郡十津川村白谷, 14. V. 1996, 桐山 功採集。

* I. KIRIYAMA, Collected records of Cantharidae in the Kii Peninsula, Honshu, Japan.

本種は前種の近似種として TAKAHASHI (1992) によって記載されたものであるが、その後広島・岐阜・静岡・神奈川・新潟の諸県から記録されている。

9. *Athemus (Athemus) vitellinus* (KIESENWETTER) セボシジョウカイ

1♂1♀, 和歌山県東牟婁郡熊野川町滝本, 11. V. 1997, 桐山 功採集.

10. *Athemus (Athemus) maculiellytris* ISHIDA フチヘリジョウカイ

3♂1♀, 奈良県吉野郡十津川村白谷, 14. V. 1996, 桐山 功採集.

本種は ISHIDA (1986) より記載されたあと、関東

地方以西の各地で記録されている。

11. *Mikadocantharis alpicola* NAKANE ミヤマヒメジョウカイ

黒化型 (ssp. *serio* NAKANE と称される型)

5♂2♀, 奈良県吉野郡十津川村北又谷, 14. V. 1996, 桐山 功採集.

黄縞型

1♂1♀, 三重県一志郡美杉村三重大学演習林, 7. VI. 1997, 桐山 功採集.

12. *Mikadocantharis japonica* (KIESENWETTER) ヒメジョウカイ

1♂, 奈良県吉野郡十津川村白谷, 14. V. 1996, 桐山 功採集.

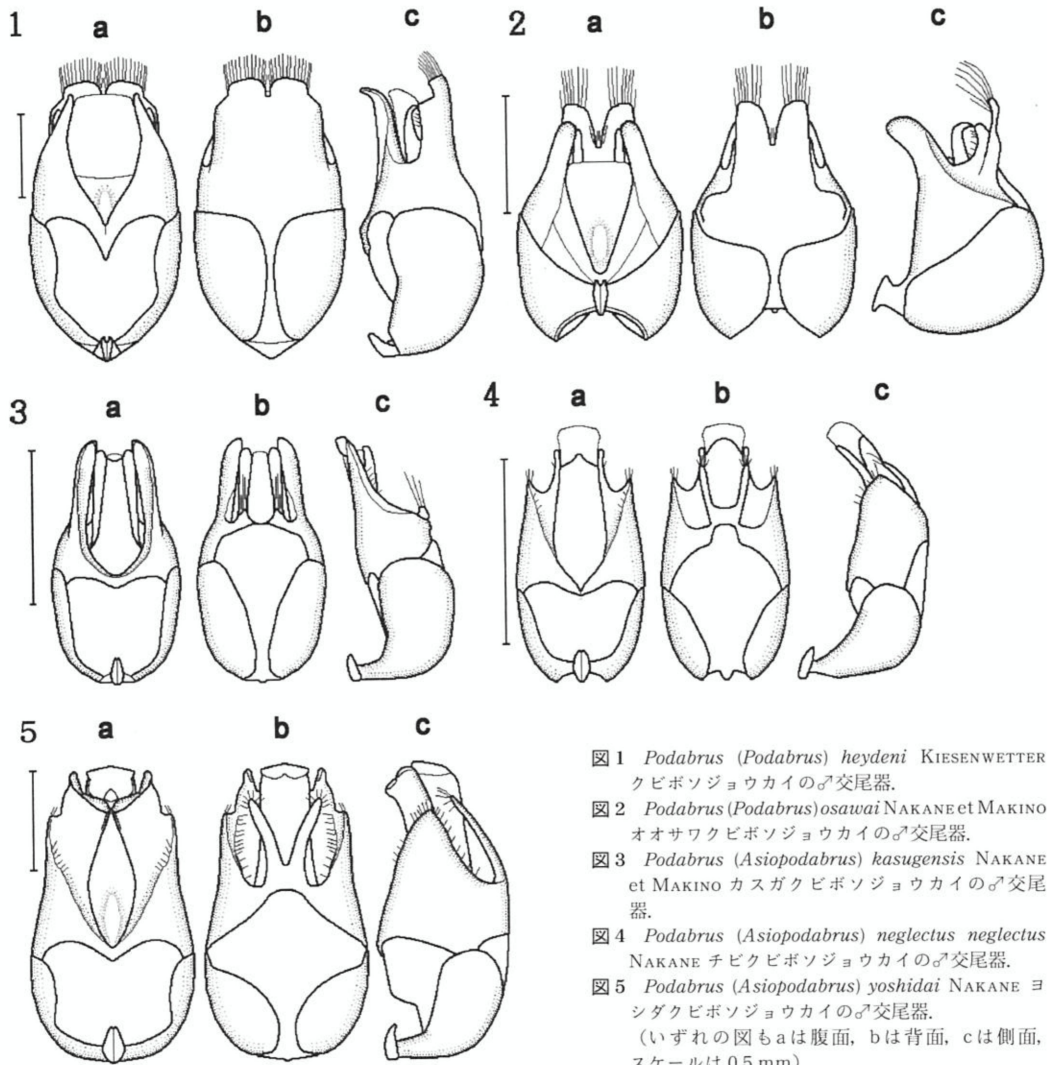


図1 *Podabrus (Podabrus) heydeni* KIESENWETTER クビボソジョウカイの♂交尾器。
 図2 *Podabrus (Podabrus) osawai* NAKANE et MAKINO オオサワクビボソジョウカイの♂交尾器。
 図3 *Podabrus (Asiopodabrus) kasugensis* NAKANE et MAKINO カスガクビボソジョウカイの♂交尾器。
 図4 *Podabrus (Asiopodabrus) neglectus neglectus* NAKANE チビクビボソジョウカイの♂交尾器。
 図5 *Podabrus (Asiopodabrus) yoshidai* NAKANE ヨシダクビボソジョウカイの♂交尾器。
 (いずれの図もaは腹面, bは背面, cは側面, スケールは0.5 mm)

13. *Athemellus insulsus* (HAROLD) ウスチャジョウカイ

1♂, 奈良県吉野郡十津川村白谷, 14. V. 1996, 桐山 功採集; 1♀, 奈良県吉野郡十津川村北又谷, 14. V. 1996, 桐山 功採集.

14. *Prothemus reinii* (KIESNWETTER) ヒガシマルムネジョウカイ

1♂, 和歌山県東牟婁郡熊野川町滝本, 11. V. 1997, 桐山 功採集.

本種は TAKAHASHI (1992) と NAKANE (1993) によってマルムネジョウカイ *Prothemus ciusianus* (KIESNWETTER) とは♂交尾器などが違うことを指摘して分割されたものである。今回の報告と桐山 (1995) により, その分布の西端が岐阜県と紀伊半島を結ぶ線まで来ていることが判明したが, まだマルムネジョウカイとの分布境界がどこであるかは分かっていない。

15. *Malthinus japonicus* OHBAYASHI クロツマキジョウカイ

1♀, 奈良県吉野郡十津川村上葛川, 1. VI. 1986, 桐山 功採集; 1♂, 同所, 18. V. 1995, 桐山 功採集; 3♂♂, 奈良県吉野郡十津川村白谷, 17. V. 1995, 桐山 功採集.

本種は三重県湯ノ山, 大阪府岩湧山, 岐阜市, 鳥取県大山で採集された標本をもとにして OHBAYASHI (1949) によって記載された種であるが, その後高橋 (1992) の神奈川県, 桐山 (1995) の岐阜県, 今坂・中村 (1993, 1997) の広島県, 今坂・山屋 (1993) の新潟県の記録があり, 広島県から新潟県まで広く分布しているようである。体の上面が黒褐色で, 上翅末端が鮮やかな黄色となっており, ♂交尾器が大きく, その腹面に2対の鈎状突起があるので, 他の *Malthinus* 属の種とは容易に区別できる。

16. *Malthinus nakanei* WITTMER ウスバツマキジョウカイ

和歌山県東牟婁郡熊野川町滝本, 1♂, 4-5. V. 1988; 1♂1♀, 11. V. 1997, 桐山 功採集.

本種は長野県木曾福島町と岐阜県高鷲村蛭ヶ野で採集された標本をもとに WITTMER (1955) によって記載されたが, その後高橋 (1992, 1997) が神奈川県, 今坂・山屋 (1993) が新潟県佐渡, 桐山 (1995) が岐阜県, 今坂・大塚 (1996) が熊本県で記録しており, 西日本に広く分布しているようである。ただ, ♂交尾器も近似している *M. sagamiensis* もあるの

で注意しなければならない。

17. *Malthodes longipygus* WITTMER ナガチビジョウカイ

1♂, 奈良県吉野郡十津川村上葛川, 1. VI. 1986, 桐山 功採集; 1♂1♀, 奈良県吉野郡十津川村白谷, 14. V. 1996, 桐山 功採集.

本種は長野県上高地で採集された標本をもとにして WITTMER (1954) が記載したものであるが, その後, 高橋 (1992) の神奈川県や桐山 (1995) の岐阜県のほか, 平野 (1992) によって北海道からも記録されており, 割合広く分布しているようである。♂の腹板末節が長いスプーン状になり, 他の *Melthodes* 属とは区別がし易い。

参考文献

- 平野幸彦, 1992. 月刊むし, (260): 35.
 今坂正一・中村慎吾, 1993. 広島県のジョウカイボン相 (予報). 比和科学博物館研究報告, (31): 43-65.
 今坂正一・中村慎吾, 1994. 広島県のジョウカイボン相 (第2報). 比和科学博物館研究報告, (32): 19-24.
 今坂正一・中村慎吾, 1996. 広島県のジョウカイボン相 (第4報). 比和科学博物館研究報告, (34): 123-128.
 今坂正一・中村慎吾, 1997. 広島県のジョウカイボン相 (第5報). 比和科学博物館研究報告, (35): 49-52.
 今坂正一・山路 治・渡辺昭彦, 1990. 岡山県のジョウカイボン相. すずむし, (125): 1-20.
 今坂正一・山屋茂人, 1993. 新潟県のジョウカイボン科 (1). 長岡市立科学博物館研究報告, (28): 47-58.
 桐山 功, 1995. 岐阜県産ジョウカイボン科甲虫の記録 (1). 啓蟄, 13(35): 1-10.
 MAKINO, T. & T. NAKANE, 1981. A revision of the genus *Podabrus* Westwood in Japan (I). *Rep. Fac. Sci., Kagoshima Univ.*, (14): 55-63.
 NAKANE, T., 1993. Notea on some little-known beetles in Japan. *Kita-Kyushu no Konchu*, 40(20): 155-162.
 NAKANE, T. & T. MAKINO, 1989. A revision of the genus *Podabrus* Westwood in Japan (II). *Rev. Miyazaki Sangyo-Keiei Univ.*, 1(2): 1-18.
 高橋和弘, 1992. 神奈川県のジョウカイボン科. 神奈川虫報, (100): 71-124.
 高橋和弘, 1995. 「神奈川県のジョウカイボン科」の追補について. 神奈川虫報, (113): 19-37.
 高橋和弘, 1997. ホタル上科. 丹沢大山自然環境総合調査報告書: 215-221.
 WITTMER, T., 1953. Beitrag zur Kenntnig der Palaearktischen Malacodermata. *Entom. Rev. Japan*, 6(5): 35-37.

(岐阜県岐阜市)

○宮城県で採集されたハヤチネベニコメツキ

Denticollis yasumii ÔHIRA ハヤチネベニコメツキは, 岩手県早池峰山と青森県岩木町で採集された3個体の雄に基づいて ÔHIRA (1993, *Elytra*, 21: 251-252) により記載された種である。その後, 尾崎 (1995, *Celastrina*, (30): 43-44) によって1雌 (岩木町) が記録されたが, 宮城県からの記録はなかった。

1♀, 宮城県七ヶ宿町稲子, 29. VII. 1994.

本種はこれまでに発見された個体数が少ないため, 地理的変異や性別による色彩の違いは明らかでないが, 今回, 宮城県で採集された雌個体は, 青森県から報告された雌個体と同様に全体が黒い形質を示すものであった。

末筆ながら, 貴重な資料をご提供いただいた, 桑久仁雄氏に厚くお礼申し上げます。

(東京都世田谷区, 鈴木 互)

チョッキリゾウムシ生態不明種の採集例

佐藤光一・堀川正美

沢田佳久博士がチョッキリゾウムシを独立の科として日本産の総説を発表されたのは1993年であった。そこでは新種・新記録種があらたに加えられる一方、いまだに生態不明種が少なくないことも示されている。

これら生態不明種については当然、どのような植物ににいるのかを明らかにすることが探究のいとぐちになる。またそれが確実なものであれば、その植物が推定ホストとみなされうる。

今回採集例を発表できるのは4種であるが、いずれもこれまで少ない種であった。今回多数発生を発見したオオケバカチョッキリのほかは、確実性を求めて同じ場所の同じ植物についてなるべく再確認採集を試みた。

オオケバカチョッキリの項の筆者は佐藤、他の項の筆者は堀川である。採集者名のないのはすべてその項の筆者の採集である。

ヒメクロケシツブチョッキリに関して、同定して下さった沢田博士に、写真を撮影して下さった宮川澄昭氏に、植物を同定して下さった神奈川県立博物館〔自然〕の勝山輝男氏に、仲介して下さった高桑正敏氏に、キアシホソチョッキリに関して情報を教えて下さった上田康之氏(神奈川県藤沢市)に、あらためて深謝の意を表す。

1. ヒメクロケシツブチョッキリ *Auletobius puberulus* (FAUST, 1882)

〔生態: 的場(1983)によれば若干数がヨモギから採集された。福岡県香椎でヤナギから1♂が採集されている〕(沢田論文による・以下同じ)

25頭, 長野県南牧村板橋, 1996年8月5日; 2頭, 同所, 1997年8月2日。

すべて1本のカラコギカエデの若木から採集した。2回目の採集数が少ないのが意外だったが、2個体ともテネラルで腹部が未発達だったのでこの年の発生が遅れていたらしい(野辺山原では7月上旬まで気温が低かったりするとゾウムシ類に限っても発生がしばしば不安定である)。

2回とも周囲数十米範囲を調べたが、いたのは結局1本だけであるこのカラコギカエデであった。また現場は板橋川の川添いでヤナギ類も少なくないが、ヤナギから本種はみつかっていない。(写真は体長2.2mmの♂)

2. キアシホソチョッキリ *Eugnamptus flavipes* SHARP, 1889

〔生態: 不明〕

「何にいたの?」と堀川。「アセビ!」と上田康之氏。20頭, 神奈川県箱根町大湧谷, 1996年8月2日, 上田康之採集; 42頭, 同所, 1997年8月1日。

すべてアセビから採集された。これまで5~6月に少数が採集されていたが何ににいるのかははっきりしなかった。大湧谷周辺は各所にアセビの密生地があるので7~8月に相当数が発生するものと思われる。

こうして箱根ではアセビにいることが確認されたが、しかし本種はアセビに固着していない。アセビが全くない所での採集例がある。

4頭, 長野県三岳村瀬戸ノ原, 1993年8月1日。ここではウミズザクラにいた。

またアセビの分布(宮城・山形以南)以北の、北海道産などは当然別な植物ににいることになる。

3. クロホソチョッキリ *Eugnamptus morimotoi* NAKANE, 1963

〔生態: 不明〕

7頭, 新潟県湯之谷村銀山平, 1990年6月22日; 8頭, 同所, 1997年7月5日; 15頭, 同所, 1997年7月6日。

同じ場所のヤシヤブシに必ずいる。しかし奥只見湖沿いの国道の道端の工事跡などに密生している低木はオオバヤシヤブシのようでこれは全く本種と無関係である。

文献問題: 沢田論文の *Eugnamptus* 属の検索表中、キアシホソチョッキリとクロホソチョッキリの項にミスがある。前脛節背稜の針状突起列の有無に関して、キアシホソは with (ある), クロホソは within (ない) となっているが、これは逆で、キアシホソは within, クロホソが with が正しい。本文の種別解説ではそうになっているし、現物標本に即してもそうである。前脛節背稜に針状突起列のあるのがクロホソチョッキリである。

4. オオケバカチョッキリ *Haplorhynchites amabilis* (ROELOFS, 1874)

〔生態: 不明〕

66頭, 栃木県藤岡町赤麻・渡良瀬遊水池, 1997年4月13日; 13頭, 栃木県小山市下生井・渡良瀬遊水池, 同日; 2頭, 栃木県那須町常民夕狩, 1997年6月15日; 6頭, 栃木県栗山村土呂部, 1997年



ヒメクロケシツブチョッキリ, ♀

6月27日。

渡良瀬遊水池ではノカラマツ、常民夕狩と土呂部では、種の特定までにはいたっていないが陽当たりのよい草地に生えるカラマツソウの仲間から採集した。以上の結果から本種は、キンボウゲ科のカラマツソウ属が寄主植物と思われる。

渡良瀬遊水池で本種は、ノカラマツの展開したばかりの若葉に極めて多数の個体が確認された。採集したのはほんの一部である。ノカラマツは遊水池のやや乾燥ぎみの所に群生しており、早春まだヨシなどの他の高茎植物の芽が伸びきらない頃にすでに若

葉が展開している。また、ノカラマツは環境庁のレッドデータブックの希小種で本州・九州に分布するが、栃木県では渡良瀬遊水池だけに記録のある希な植物である。

参考文献

- SAWADA, Y. (1993) A systematic study of the Family Rhynchitidae of Japan. 「人と自然」 No. 2, 1-93. 兵庫県立人と自然の博物館。
(佐藤: 栃木県宇都宮市, 堀川: 神奈川県横浜市)

○ヨシダヒョウタンメダカハネカクシの生息環境

Dianous yoshidai ヨシダヒョウタンメダカハネカクシは、沖縄県西表島カンピラの滝より得られた1♀を基に、NAOMI (1988) によって記載されたヒョウタンメダカハネカクシの一種である。

筆者は西表島に甲虫類の調査で訪れた際、本種の基準産地である浦内川カンピラの滝にて多数の個体を観察、採集する事が出来たので報告する。

本種が多く見られたのは、滝が流れる巨大な岩盤の割れ目部分である(図1)。水際に近づくにつれ溝の内部は湿度が高く、時として水が流れ、表面にはやや疎らにコケが生えている。その中でも日陰になっている岩の隙間に数匹がまとまって潜んでいることが多く、時には日当たりの良い岩の表面を徘徊する個体も見受けられた。また、本種の体色は青味の強い暗青銅色であるが、これが岩の表面の色彩に

見事に溶け込んでいた。

カンピラの滝のすぐ下流にあるマリユードの滝についても同様に調べたが、右岸の岩盤の様子はやや異なり、本種を見出すことは出来なかった。左岸側にはほぼ同様の状態が見られたが、渡ることが出来ずに未調査のままである。

Dianous yoshidai 約50頭, 16. III. 1997, 沖縄県西表島浦内川カンピラの滝, 筆者採集, 直海俊一郎保管(一部筆者保管)。

末筆ながら、本種を同定していただき、文献の入手に便宜を図って下さった東京農業大学大学院の岸本年郎氏に、また原稿をみて下さり、本種について御教示頂いた千葉県立中央博物館の直海俊一郎博士に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- NAOMI, S., 1988. Studies on the subfamily Steninae from Japan I. New or little known species of the genus *Dianous* LEACH (Coleoptera: Oxyporidae). *Trans. Shikoku ent. Soc.*, 19: 47-54.

(埼玉県嵐山町, 豊田浩二)

○ピックオビハナノミの東京都高尾山からの記録

ピックオビハナノミ *Glipta pici* ERMISCH は本州、四国、九州、屋久島、台湾に分布する。本州ではこれまで中国地方と近畿地方のみから知られていたが、次のように東京都下で採集されたので、分布の東限記録として報告しておく。

1♀, 東京都八王子市高尾山, 21. VIII. 1997, 小野口隆敏採集, 筆者保管。

いわゆる稲荷山コースでの中間点ほどのモミ立ち枯れ木の樹皮をはがしたところ、その下に静止していたもので、とっさに押さえつけたために鞘翅はいくらか左右に開いてしまったということである。尾節板がやや短い、他産地の個体ととくに形態差は認められない。

末筆ながら、本個体を恵くださるとともに、発表を委ねられた小野口隆敏氏にお礼申し上げます。

(神奈川県立博物館(自然), 高桑正敏)



図1 カンピラの滝と *Dianous yoshidai* の生息環境。

○ヒゲナガヒラタドロムシ(新称)の採集記録

ヒゲナガヒラタドロムシ(新称) *Nipponeubria yoshitomi* LEE et SATO は愛知県北設楽郡稲武町面の木峠で採集された幼虫を飼育して得られた成虫の標本をもとに最近に記載された、小型のヒラタドロムシである。幼虫はブナの自然林の林床の小さな流れに生息し、コクロマルハナノミ *Elodes inornata* LEWIS の幼虫と共に落ち葉の下面などより採集される(LEE & SATO, 1996; YOSHITOMI, 1997, p. 363, fig. 12)。基準産地では幼虫は比較的普通に見られるのに対し、成虫は大変少ない(採集するのが難しい)ようでその後の度重なる調査でも採集されていない(LEE & SATO, 1996)。筆者は同じ愛知県内であるが別の場所で採集しているので報告する。

2♂♂, 愛知県足助町伊勢村, 21. VI. 1996, 吉富博之・中野裕道採集, 佐藤正孝博士所蔵。

本産地は道路脇の岩盤に水が流れ落ちて、小さな滝のようになっている場所であり、基準産地とは環境を異にする。今回記録した標本は日中に草の葉上に静止していた個体を採集した。同地を何度も訪れているが採集できたのは上記の個体のみであるので、成虫の出現時期が極めて短いのかかもしれない。幼虫については冬季に採したが、採集することができなかった。なお、この場所にはマルヒゲナガハナノミ *Cophaesthetus brevis* (LEWIS) も生息しており、水も滴る岩盤に張り付いている多くの幼虫を観察することができた。

末筆ながら、日頃よりご教示いただいている名古屋女子大学の佐藤正孝博士と、採集に同行して下さった名古屋市の野中 勝氏と中野裕道氏にお礼申し上げます。

引用文献

LEE, C.-F., & M. SATO, 1996. *Nipponeubria yoshitomi* LEE and SATO, a new species in a new genus of Eubriinae from Japan, with notes on the immature stages and description of the larva of *Ectopria opaca* (KIESENWETTER) (Coleoptera: Psephenidae). *Coleopt. Bull.*, 50(2): 122-134.

YOSHITOMI, H., 1997. A revision of the Japanese species of the genera *Elodes* and *Sacodes* (Coleoptera, Scritidae). *Elytra, Tokyo*, 25: 349-417.

((株)環境指標生物, 吉富博之)

○ヒゲナガハナノミの幼虫の生息場所

ヒゲナガハナノミ *Paralichas pectinata* (KIESENWETTER) の成虫は、春から初夏に湿地の植物の葉上などで普通に発見される。幼虫の生態と外部形態については林(1986a, b)により記述されている。林(1986a)は本種の幼虫が白菜畑の土中から採集されたことを述べ、飼育の結果より水分の多い粘土質の土中に生息し、長い尾突起を地表か水面に伸ばして生活しているのではないかと推測している。

筆者は、愛知県豊田市西広瀬において、本種の幼

虫を観察しているため、生態的な知見を報告する。幼虫の生息場所は水分の多い休耕田であった。幼虫は秋から春にかけて、水中にある落ち葉や倒木の下などで多く観察できた。尾突起を水面に突出させている幼虫もいた。動作は緩慢で、おそらく有機物を食していると考えられる。蛹については観察することができなかった。この休耕田にはヒメタイコウチやイモリなども生息していた。

林(1986a)の観察とは、幼虫の体に泥がこびりついていない点と、土中からは採集されなかった点が異なっている。おそらく、通常の幼虫の生息場所は湿地中の水中であり、蛹化する際に土中に潜り込むのではなからうか。

引用文献

林 長 閑, 1986a. 甲虫の生活. 177p. 築地書館, 東京.
———1986b. 幼虫による科までの検索表, pl. 28, 1~K.
森本・林編著, 原色日本甲虫図鑑(I) 保育社, 大阪.

((株)環境指標生物, 吉富博之)

○山梨県下のアヤオビハナノミの記録

ハナノミ科のアヤオビハナノミ *Glipta ohgushii* (CHUJŌ) は、オビハナノミ属の大型種で、分布は対馬、九州、本州とされるが、対馬以外の採集例は少ないようである。本州では東海、近畿地方で採集されている。パソコン通信上(CQE02346, 1997. 甲虫広場(Mes 5): #455, #456. 昆虫フォーラム, ニフティサーブ)で予報済みであるが、筆者は本種を山梨県で得ているので分布の東限として記録しておく。

2♂♂, 山梨県南巨摩郡身延町塩之沢(標高300m付近), 9. VIII. 1997; 1♂1♀, 同地, 13. VIII. 1997; 1♂1♀, 山梨県西八代郡下部町古関(標高300m付近), 13. VIII. 1997; 1♀, 山梨県西八代郡下部町下部(標高300m付近), 13. VIII. 1997.

採集地点の3地域は、半径5kmの円内に含まれるような地域である。塩之沢で得られた個体は農家の庭先に放置された伐採木(樹種不明)に飛来したもので、古関では、ネムノキの衰弱木に飛来した、下部では林道脇でクズの葉上に静止していたものを得た。

末筆ながら、本種の記録についてご教示いただき、紙媒体への発表をすすめられた神奈川県立生命の星・地球博物館の高桑正敏氏に深謝したい。なお、標本はいずれも同氏が保管している。

参考文献

高桑正敏, 1985. 原色日本甲虫図鑑(III): 379. (黒澤良彦, 久松定成, 佐々治寛之編著), 保育社, 大阪.

(埼玉県北葛飾郡, 亀澤 洋)

○石川県産アリヅカムシ類 2種の分布記録

Bryaxis kintaro kintaro NOMURA は東北から関東、中部地方にかけて分布することが知られている (NOMURA, 1995)。分布の西限記録と思われる石川県から本種を採集した。

また、シマムクゲアリヅカムシは東北から中国地方にかけて本州全域に広く分布しており、すでに石川県から発表されている (NOMURA, 1996)。

筆者は両種を石川県で採集しているので、報告しておく。

- 1) *Bryaxis kintaro kintaro* NOMURA, 4 頭。
- 2) *Tainochus insulicola* (NOMURA et LEE) シマムクゲアリヅカムシ, 1 頭。

両種の採集データ: 石川県金沢市鳴和町, 26. XII. 1993, 筆者採集。

採集地点は金沢市街地から 5 km ほど離れた郊外である。竹林とコナラやクスギ等を植生とする二次林の林縁部から採集した。採集方法はツルグレン装置を使った。

両種の同定をいただいた国立科学博物館の野村周平博士に謝意を表す。

参考文献

NOMURA, S., 1995. Taxonomic notes on *Bryaxis koltzei* (REITTER) and its allied new species from Japan (Coleoptera, Pselaphidae). *Esakia, Fukuoka*, (35): 129-134.

NOMURA, S., 1996. A revision of Tychine Pselaphids (Coleoptera, Pselaphidae) of Japan and its adjacent regions. *Elytra, Tokyo*, 24: 245-278.

(石川県金沢市, 中田勝之)

○平野部におけるハナカミキリ 2種の記録

ヨツスジハナカミキリ *Leptura ochraceofasciata* (MOTSCHULSKY, 1861) とアカハナカミキリ *Corymbia succedanea* (LEWIS, 1879) は共に、北海道から九州までの低山地から山地の広域に分布する種類であり、前者は初夏から夏の盛りの頃に、また後者は夏の盛りの頃から晩夏にかけて多くの個体が観察され、全国的に最優占種となっている。しかし、これら 2種の平地における記録はきわめて少ない。その理由の一つとして、平野部には両種が生息できうる樹林環境がきわめて少なく、そして、その少ない生息環境も宅地化などの影響により激減しているためと考えられる。筆者は埼玉県の平野部においてアカマツの倒木中よりハナカミキリ亜科の幼虫を採集、飼育した結果、次のように両種の生息を確認したので記録しておきたい。

埼玉県鶴ヶ丘市新町

幼虫採集 (アカマツ倒木中より): X. 1996.

ヨツスジハナカミキリ: 1♂, V. 1997. 羽化。

アカハナカミキリ: 6♀♀, VI. 1997. 羽化。

当地における両種の生息環境は、住宅地や道路により隔離された小規模な樹林で、その一部は公園化していた。

筆者の在住している横浜市においても両種が確認されており、ヨツスジハナカミキリは、その生息を現在でも確認できる。一方、アカハナカミキリは、ここ 15 年以上、生息確認がされていない。アカハナカミキリはヨツスジハナカミキリに比べ、より環境の変化 (都市化) に弱い種類と推察され、アカハナカミキリの生息状況から見た自然環境は、横浜市より埼玉県鶴ヶ丘の方が豊かであると考えられる。(神奈川県横浜市, 日下部良康)

○ゴイシモモトカミキリ北海道からの記録

ゴイシモモトカミキリ *Callapoecus guttatus* BATES は、これまで本州、四国、九州に分布する 1 属 1 種の日本特産種とされているカミキリムシで、平嶋 (1989) や佐々木他 (1993) の分布記録にも北海道はその分布域に含まれていない。したがって従来、北海道より記録のなかった本種を道南の七飯町で採集しているのが北限の記録として報告する。

1♂, 北海道渡島支庁七飯町仁山, 2. VIII. 1997, 堀繁久採集・保管。



本個体は、七飯町仁山山腹の林道で樹種不明の枯れ枝のピーティングにより得られた。前胸背板の 2 対の突起、触角第 1 節及び後腿節後半部の肥大等本種の特徴を備えているため、ゴイシモモトカミキリと同定した。なお、本州静岡県産の本種 2♂1♀と外部形態を比較してみるとやや体表の微毛が薄く上翅基部の縦隆条が弱い傾向がみられるが、地域変異なのか個体変異なのか 1 個体しか得られていない現段階では不明である。今後の追加記録が期待される。

最後に、本州産の比較標本を恵みいただいた札幌市の前田 徹・けい子ご夫妻と採集に同行いただいた旭川市の佐々木恵一氏、東川町の鈴木敏春氏、札幌市の土肥 隆氏にお礼申し上げる。

参考文献

平嶋義宏監修, 1989. 日本産昆虫総目録. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター。

佐々木恵一・長尾 康・鈴木敏春, 1993. 北海道のカミキリムシ科の分布について. *Jezoensis*, (20): 49-162.

(北海道札幌市, 堀 繁久)

○12月のアトモンサビカミキリの採集例

次のように、アトモンサビカミキリ *Pterolophia rigida* (BATES) を12月に神奈川県内で採集したので、ここに書き留めておくことにしたい。

1♂, 小田原市入生田, 4. XII. 1997, 高桑採集。

コンクリート外壁の下に触角と脚を広げた状態で静止していたもの。左中附節以下を欠いているが、きわめて新鮮な個体で、体表を被う微毛はほとんど抜けていないように見える。このため、発見の直前に材中から脱出した新成虫である可能性が高い。

このカミキリの成虫が採集されている時期は、ふつう春から晩夏にかけてである。確かに、秋期にも新成虫が脱出(早川・堀, 1971, 松本むしの会年報, (8): 85) し、ちょっと調べたところでは11月上旬(栃木県立博物館, 1984, 栃木県のカミキリムシ, p. 176)まで野外で得られているが、12月に姿を見るのは異例なことと思われる。ただし、本種は成虫越冬を行う(小島・林, 1969, 原色日本昆虫生態図鑑, 1, p. 110; 鈴木・大川, インセクト, 29(1): 35) ことが知られており、その意味では越冬前の発見は当然なのかもしれない。

(神奈川県立博物館(自然), 高桑正敏)

○埼玉県におけるオオハッカヒメゾウムシの記録

オオハッカヒメゾウムシ *Baris pilosa* は ROELOFS (1875) によって記載された種で、ハッカ・シソの害虫として知られている(森本, 1984, p. 309)。筆者は嵐山町在住の豊田浩二氏のご好意により、埼玉県産の本種の標本を検査する機会に恵まれた。同県からの記録はないようなので、初記録としてここに報告する。

22頭, 埼玉県嵐山町菅谷, 10. VI. 1997, 豊田浩二採集。

同氏によれば、庭先に植えてあるレモンバームより得られたもので、昼間根際の落葉下に潜み、夜間になると地上に上がってきて茎を盛んに摂食するのが観察できたということである。今回得られたものは未成熟個体が多かったことから恐らく後食していたものと思われる。

末筆ながら、貴重な標本を恵んでくださった豊田浩二氏に感謝申し上げる。なお、標本は吉原一美氏と筆者がそれぞれ11頭ずつ保管している。

(東京農大, 吉武 啓)

◇第22回名古屋支部大会報告◇

第22回名古屋支部大会は、3月8日(日)12時半より愛知県豊橋市の豊橋市自然史博物館講堂で開催された。最初に自己紹介を兼ねた一人一話が行われ、続いて一般講演、招待講演が行われた。参加者は愛知・岐阜・三重県等、東海地方在住の会員が中心であったが、遠来からの参加もあり、午後4時半の時間一杯まで活発な談義が行われた。

招待講演は神奈川県平塚市の高橋和弘氏により、日本産ジョウカイボン科の分類の現状が紹介され

た。高橋氏は現在日本産ジョウカイボンについての目録を作成中で、日本産全種について、美しい標本写真とオス交尾器の図を示し、難解なジョウカイボン科を丁寧に紹介された。

一般講演は3題行われた。演者とタイトルは以下の通り。

小鹿 亨: ミカワオサムシの色彩変異について

長谷川道明: 奥三河で発見されたオオミズクサハムシについて

浅岡孝知: トカラ列島(中之島, 宝島)の採集紀

開催にあたり色々とお世話いただいた豊橋市自然史博物館の方々に感謝の意を述べてレポートを終わりたい。



出席者氏名(50音順) 秋田勝己, 浅岡孝知, 岩崎博, 伊沢和義, 石川博康, 大塚 篤, 大平仁夫, 小笠原 丞, 小鹿 亨, 奥島雄一, 蟹江 昇, 桐山功, 楠 雅雄, 斎藤孝夫, 坂上光一, 佐藤正孝, 白井勝己, 杉浦 亮, 杉村明道, 高井 泰, 高橋和弘, 戸田羊一, 野中 勝, 長谷川道明, 穂積俊文(以上25名)。

(名古屋支部長, 穂積俊文)

日本鞘翅学会

会費(一カ年)6,000円, 次号は1998年9月下旬発行予定

発行人 佐藤正孝

発行所 日本鞘翅学会 東京都新宿区百人町3-23-1

国立科学博物館分館昆虫第2研究室

電話(3364)2311, 振替 00180-3-401793

印刷所 (株)国際文献印刷社

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

振替 00130-4-21129

電話 (03) 3409-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 3409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社